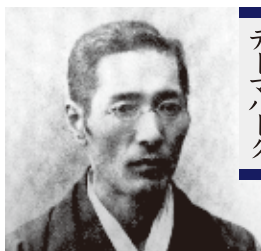


## 「近代岡山の偉人伝 殖産に挑んだ人々」

2020年8月スタート RSKイノベティブ・メディアセンター（岡山市北区天神町）

明治政府は欧米列強に伍するため、「殖産興業」政策を推進した。岡山県では、世界に誇る最高級花菱「錦莞菱」を創った磯崎眠亀、国産第一号の自動車を製作した山羽虎夫らが日本の近代産業に道を拓いた。士族授産事業に端を発した製糸業・紡績業・金融業・干拓事業などは新たな展開を見せ、銅山の拡大広域化で財閥形成に道をつけた近藤廉平、児島湾を干拓し柵原鉱山を開発した藤田伝三郎らが日本の産業発展に大きく貢献した。シンポジウム「近代岡山の偉人伝 殖産に挑んだ人々」では、日本と岡山の近代化に挑んだ先駆者の足跡をたどり、その理念や功績、継承すべき文化などを新たな研究成果とともに討論・紹介していく。

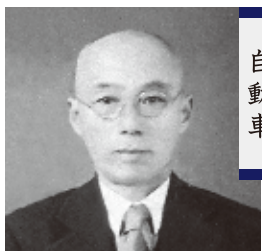
## 片山儀太郎



テーマパーク

岡山市に33mの高楼をもつ日本初のテーマパーク開園

## 山羽 虎夫



自動車

石油焚きボイラー、2気筒。国産第一号の自動車を製作

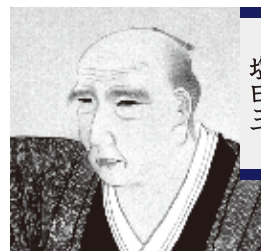
## 藤田伝三郎



児島湾干拓

児島湾を干拓し大地を生出す。硫化鉄・柵原鉱山開発

## 野崎武左衛門



塩田王

足袋製造から塩田開発へ転身し大成功。先駆的雇用方式

## 近藤 廉平



吉岡銅山

新技術を駆使し生産増大。三菱財閥形成に道づける

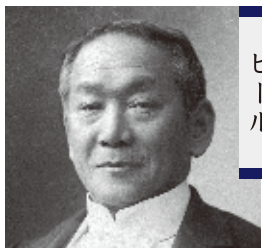
## 坂本 金弥



帯江銅山

帯江銅山を全国5指に。衆議院議員、中国民報創刊

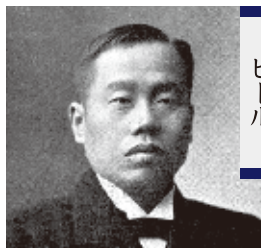
## 馬越 恭平



ビール

内閣を巻き込み業界を再編。シェア70%の大日本麦酒設立

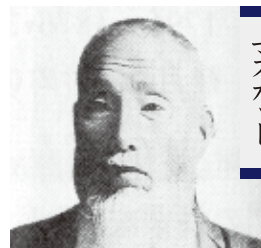
## 米井源治郎



ビール

三菱財閥の支援で麒麟麦酒設立。大日本麦酒に挑む

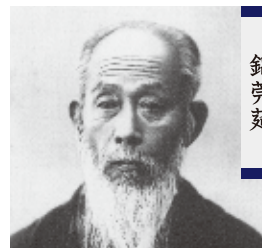
## 山内 善男



マスクット

ガラス温室設置し[マスクット]開発。桃の袋かけ考案

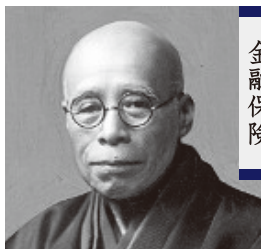
## 磯崎 眠亀



錦莞菱

梯形のさお、技法や染色法を考案。[錦莞菱]を開発

## 矢野 恒太



金融保険

日本初の相互組織生命保険[第一生命保険]を設立

## 坂野鉄次郎



郵便

[年賀]含め郵便制度を整備。郵便事業中興の祖

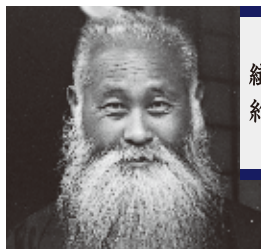
## 渾大防益三郎



繊維

児島紡績を設立し紡績の礎創る。瀬戸内海養殖の先駆

## 大原孝四郎



繊維

倉敷紡績の初代頭取。最新精紡機で良質の糸を生産

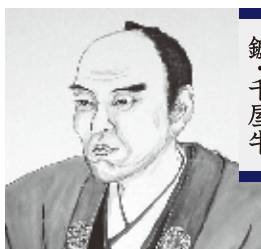
## 川村貞次郎



造船

川村造船(三井造船玉野)を創設。1年で大工場に

## 太田辰五郎



鑪・千屋牛

鉄山業で大成功。千屋牛を開発。貧民救済にも尽力

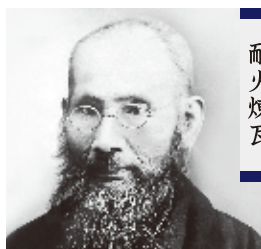
## 安達 清風



日本原

士族救済のため日本原開発。漢学塾創設し指導者を育成

## 加藤忍九郎



耐火煉瓦

反射炉材料となる耐火煉瓦を考案。鉄鋼業界興隆に導く

写真提供

片山儀太郎：岡山古写真 DB 委員会提供  
山羽虎夫：岡山県立博物館提供  
藤田伝三郎：DOWA ホールディングス提供  
野崎武左衛門：(公財)竜王会館提供  
近藤廉平：「近藤廉平傳並遺稿」より  
坂本金弥：坂本昇氏提供  
馬越恭平：サッポロビール提供  
米井源治郎：ヨネイ提供  
山内善男：「岡山県歴史人物辞典」より

磯崎眠亀：岡山県立博物館提供  
矢野恒太：(公財)矢野恒太記念会提供  
坂野鉄次郎：(公財)通信文化協会坂野記念館提供  
渾大防益三郎：岡山県立記録資料館提供  
大原孝四郎：(公財)有隣会提供  
川村貞次郎：(公財)三井文庫  
太田辰五郎：個人蔵  
安達清風：松本良和氏提供  
加藤忍九郎：(株)大平提供

# 「明治の才覚たち」

2020年8月 14:00～16:30 (予定)

RSKイノベイティブ・メディアセンター  
(岡山市北区天神町)

入場  
無料



片山儀太郎

岡山古写真DB委員会提供

香川県生まれの片山儀太郎(1856~1933)。材木商として大成功し、1892(明治25)年岡山市天神町に菅原道真をテーマにした日本初のテーマパーク「亜公園」を開園した。中心に八角形7階建て、高さ33mの「集成閣」がそびえ、周辺を劇場や旅館、遊技場や飲食店が囲む斬新な総合娯楽施設である。遙か瀬戸内海までも見渡せる景観と山陽鉄道の開通も相まって京阪神からも多くの来園者が集った。世人は「阿呆園」と揶揄したが、一方で先見性、開拓性、実行性から片山は「岡山には過ぎた男」とも言われていた。



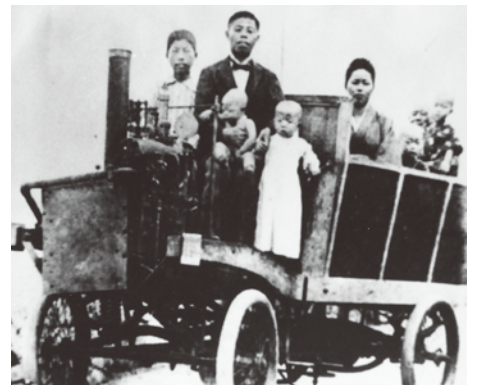
CGで再現した亜公園 ©Applonia Paper Model



山羽虎夫

岡山県立博物館提供

岡山市天瀬で電気製品修理工場を営んでいた山羽虎夫(1874~1957)。依頼を受け、見たこともない自動車の製作に挑んだ。溶接技術の無い時代である。数々の困難と闘って1904(明治37)年、わが国初の国産車「山羽式蒸気自動車」を完成させた。石油焚きボイラーの2気筒25馬力。一般道で行われた試運転では10km/h以上のスピードで走行し問題なく走らせることに成功した。ただ、高価だったこと、当時のタイヤ技術の問題から実用化には至らなかったが、山羽の自動車は、国産車として日本の道にしっかり轍を刻んだ。



試乗した依頼者の家族 日本自動車工業会提供

講演  
1

## 日本初のテーマパーク

造形作家

### 山本 よしふみ

津山市出身。浪速短期大学(現大阪芸術大学)を卒業後、(株)バンダイの超合金模型「アポロ11号」など模型業界各社の原型製作・監修等に携わる。映画「ブレードランナー」登場車両キャラクターの版權を独占取得。明石市立天文科学館「宇宙開発の歴史室」の模型監修なども行う。2012年より毎年、岡山シティーミュージアムにて「明治期の天神山界限」をテーマに講座を開催している。模型提供著書に「イツ・サンダーバード・センチュリー」「スピナー読本」など。



講演  
2

## 日本初の自動車

国立科学博物館産業技術史情報センター長

### 鈴木 一義

新潟県出身。東京都立大学大学院材料力学専攻修士課程修了。国立科学博物館理工学研究部などを経て、2013年より現職。研究対象は、日本における技術の発展過程で、特に江戸時代から現代にかけての技術の発展状況を調査・研究している。経産省「ものづくり日本大賞」選考委員、文化庁「世界文化遺産特別委員会」委員など務める。著書に「20世紀の国産車」「からくり人形」など、共著に「日本の産業遺産300選」「技術知の位相」など。

